

ヒメアカタテハ

Cynthia cardui

タテハチョウ科



ヒメアカタテハ

名前の由来

ヒメは小さいの意味。よって小さく赤いタテハチョウの意味。タテハは止まった時に翅をたてることからきているという。漢字名：姫赤蛺蝶

特定種

該当なし。

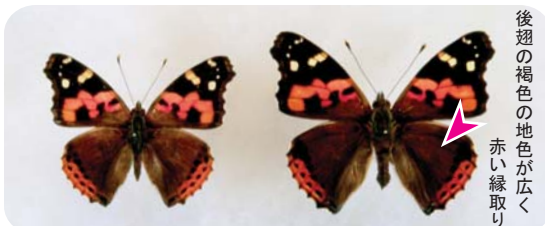
形態的特徴

赤と黒の斑紋のある中型のタテハチョウ。後翅表全体に模様がある。

類似種と見分け方

アカタテハ。

アカタテハの後翅表は褐色の地色に赤いふちどりがある。



後翅の褐色の地色が広く赤い縁取り

類似種、アカタテハ。表（左がオス、右がメス）



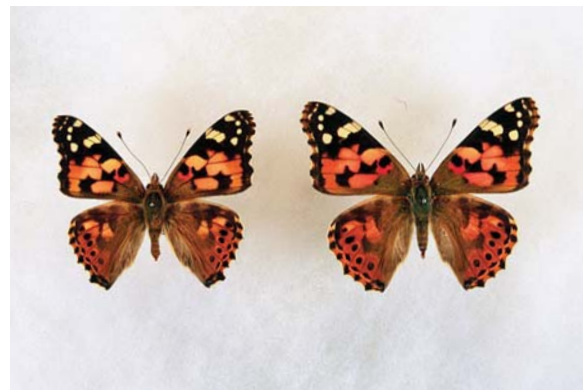
前翅の白斑が小さめで一つに見える
後翅のここに褐色斑がない

コヒオドシ。表（左がオス、右がメス）



前翅の白斑が小さめで大小二つに見える
後翅のここに白斑がある

エルタテハ。表（左がオス、右がメス）



ヒメアカタテハ。表（左がオス、右がメス）



ヒメアカタテハ。ウラ（左がオス、右がメス）

チョウ標本：吉原利之氏作成・所蔵

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
卵期												
幼虫期												
蛹期												
十勝での一般的な成虫期 (越冬できない)												

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ

生育環境・分布

市街地近郊や低山地の道端などの明るい小草原。好んで路上や裸地に止まる。

分布：国外分布は、アフリカ大陸中南部、中～南アメリカ大陸のほぼ全域、オーストラリア、ニュージーランドなどを除く地域。国内では、ほぼ日本全域に分布する。ただし越冬可能な地域は関東以西の暖地に限られる。北

海道内では、全域に分布する。これは暖地で越冬した個体が春から夏にかけて発生を繰り返しながら北上し、北海道に達したものと考えられる。

十勝地方では、平野部から山地まで広く分布する。数は年変動が大きく、全く見られない年もある。

繁殖生態・寿命

発生回数は不明。越冬は十勝ではできないと考えられている。

産卵は日当たりの良い道路わきなどで行われる。母蝶は食草付近を落ち着きなく、はばたいては止まり、前脚でたたいて食草を確認すると、すぐさま腹部を曲げ、葉の表に卵を1個産み、ただちに飛び去り、すぐまた次の産卵行動にうつる。

若齢幼虫は葉の表に網のように吐糸して引き寄せ、簡単な巣をつくり終始その中でいて、葉の表面をなめるように食べる。老熟すると葉を2～3枚つづり合わせた巣を造り、夜間摂食する。この巣はよく目立つので発見しやすい。

巢内で蛹化する。寿命：不明。

他生物との関わり

*幼虫はエゾノキツネアザミ、オオヨモギ、シロヨモギ、ゴボウ、エゾイラクサ、ヒメチチコグサを食草とする。

*成虫の吸蜜植物はセイヨウタンポポ、オオアワダチソウ、セイヨウノコギリソウ、ヒヨドリバナ、エゾノサワアザミ、シロツメクサ、エゾニュウナドなど他多数が確認されている。

*成虫がシオカラトンボによって捕食されるのが確認されている。

*蛹にはアオムシコバチが寄生し、幼虫にはタテハサムライコマユバチが寄生することが知られている。



オオヨモギ（左）とエゾノキツネアザミ（右）
ヒメアカタテハ幼虫の食草

幼虫の食性（食草）

エゾノキツネアザミ、オオヨモギ、シロヨモギ、ゴボウ、エゾイラクサ、ヒメチチコグサ。

興味深い話

■ヒメアカタテハは世界で最も広範囲で分布し、地理的変異のない種と言われ、集団で移住することが知られている。越冬は南関東でやっとできる蝶だが、夏から秋には日本全国で見られ、北海道全域にも分布する。これは暖地で越冬した個体が春から夏にかけて発生を繰り返しながら北上し、北海道に達したものと考えられるが、日本での移動については不明な点が多い。

■十勝地方で越冬はできないとされるが、5月下旬に成虫の新鮮な個体が複数採集された記録がある。これは何か人為的な環境などの越冬可能な場所があり、十勝で越冬した可能性を示すできごとである。

■十勝地方のアイヌ語では、チョウ類一般を「マレウレウ」という。

配慮事項

広範囲に移動を行う種であり、特になし。

参考文献

「原色蝶類検索図鑑」猪又敏男 北隆館 1990

「日本のチョウ」海野和男・青山潤三 小学館 1981

「原色昆虫大図鑑Ⅰ（蝶蛾編）」北隆館 1978

「名前といわれ昆虫図鑑」栗林慧・大谷剛 偕成社 1987

「十勝の蝶」大和与三追悼集 十勝蝶の会 1993

「埼玉蝶の世界」埼玉昆虫談話会編 埼玉新聞社 1984

「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994

「北海道の蝶」永盛拓行・永森俊行・坪内純・辻規男 北海道新聞社 1986

「原色日本蝶類生態図鑑（Ⅲ）」福田晴夫・浜栄一 他 保育社 1983

「知里真志保著作集 別巻Ⅰ 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 花

(外来種) 花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ